

伊津部小学校の自慢と誇り

校長 山田吉夫

令和4年度がまもなく終わろうとしています。第64回卒業式では、34名の児童がこの伊津部小を巣立っていきました。この64年の間に、本校を卒業した児童は、8000人を超えます。奄美市内では歴史の浅い方の学校ですが、伊津部小には、本当に多くの特色や学校自慢があると思います。

まず、「やるならやるでしゃんとやれ」という校訓。この1度聞いたなら忘れられない校訓は、児童・保護者・地域の方々も含め、伊津部小の精神的な支柱と思われるくらい、人々の心に浸透してきていると感じます。

次に、開校後まもなく誕生した「さざ波バンド」。演奏の形態は、発足当初からは大きく変わってきていますが、児童数が少なくなってきた現在も、多くの児童がその活動に積極的に参加し、地域に貢献し愛される姿は、ずっと変わることなく続いてきていると思います。

そのほかにも、とても広い校庭やたくさんの方々の階段、高低差が大きい校舎の並び、そこから眺める名瀬市内の素晴らしい景色など、伊津部小に来てみなければ分からない良さもたくさんあります。

3月16日（木）に本校出身の平田まりなさんが来校し、1年生の道徳の授業で特別講師を務めてくださいました。シマ唄を始めたきっかけやシマ唄の面白さなどを語り、心に沁みる歌声でシマ唄を披露してくださいました。いつかこのような機会が来ればと待ち望んでいたのですが、今回ようやくそれが実現しました。

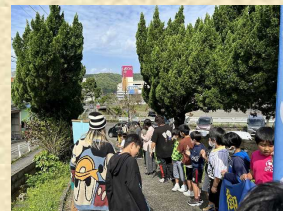
伊津部小の自慢と誇りは、まだまだたくさんあると思いますが、一番の自慢は伊津部小の子供たち自身だと思います。また、子供たち自身が自ら伊津部小の誇りであることを自覚できるようにすることが、学校の役割の一つであると感じます。卒業していく子供たち一人一人が、伊津部小学校の卒業生でよかったと思えるように、これからも職員一同、力を合わせてがんばっていきたいと思います。令和4年度も多くの御支援・御協力をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

お世話になりました

この度の定期人事異動で、6名の先生方とお別れすることになりました。

- 山田吉夫 校長先生（湧水町立栗野小校長）
- 盛信子 先生（定年退職 瀬戸内町立阿木名小再任用）
- 竹元めぐみ 先生（鹿児島南特別支援学校へ）
- 出口彬 先生（期限満了退職）
- 実田はるな 先生（瀬戸内町立古仁屋小事務職員として）
- 田平梨奈 先生（奄美小校務員として）

3月24日には辞任式を、27日には出発式を行いました。新天地でのそれぞれの先生方のご多幸とますますのご発展を祈念したいと思います。



サンバの放鳥

2月中旬、サンバが校庭で弱っていました。奄美博物館に連絡したところ、動物病院につないでいただき、無事回復することができました。そして、3月1日、保護された伊津部小校庭から、多くの児童に見守られながら空に帰っていきました。動物保護、生命尊重という視点からも貴重な経験となりました。



お別れ遠足

3月3日(金)に全学年で長浜みなと公園に行きました。児童会主催のレクリエーションで楽しんだり、友達と弁当を食べたりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。

卒業式



3月23日(木)第64回卒業式を行いました。伊津部小学校から34名の児童が巣立っていきました。証書の受け取りや返事、お別れの言葉や歌なども立派に行うことができました。34名の中学校での更なる活躍を楽しみにしたいと思います。

修了式

24日(金)に修了式を行いました。代表で受け取る児童は皆、堂々と校長先生から修了証書を受け取りました。また、児童代表の言葉は、1年生と3年生が行いました。共に来年度につながる素敵なスピーチでした。



特別支援学級閉級式

3月1日にさざなみ学級、しおかぜ1組2組合同での閉級式を行いました。子供たちは、今年1年でできるようになったことや感謝の言葉を発表しました。また、交流学級の担任の先生からもお言葉をいただきました。子供たちの成長を改めて実感できた式となりました。



特別支援学級閉級式

3月16日に、唄者の平田まりなさんを講師としてお招きした1年道徳の授業を行いました。平田まりなさんは、伊津部小学校出身で、郷土文化のよさや個性の伸長をテーマに授業を展開してくださいました。子供たちの充実した表情が印象的でした。

